

まちのキラリびと



子どもの権利が尊重される当たり前の社会を目指して活動中！

つるがCAP 代表
ふじの あけみ
藤野 明美さん (60)

子どもの権利(安心・自信・自由)が当たり前の社会を目指して

つるがCAPの「CAP」とは、「Child・Assault・Prevention」の頭文字を取ったもので、いじめ・虐待・体罰・誘拐・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守るプログラムのことです。

つるがCAPでは、子どもへのあらゆる暴力防止を目的に、子ども向けや大人向けのワークショップや講演会の開催を中心に活動しています。

私たちは、子ども達に「〇〇をしちゃダメだよ」「ダメなものダメ。」と大人の価値感を一方的に押し付けてしまいがちですが、子どもは、子どもなりに、危険から身を守る力を持っています。

子ども向けワークショップでは、ロールプレイを通して、誰しもが、生まれながらにして当然に持つ「安心・自信・自由」という権利に気付きを与え、自分が危険な目に合いそうなきや友達が嫌な目に合っているときに、何ができるかを考えるきっかけを掴んでもらえるよう努めています。また、大人の方にも子どもの力を信じ、子どもの視点でサポートができるようなプログラムも行っています。

毎週火曜日に、あいあいプラザで例会を行っていますので、気軽にお越しください。誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指して、今後も活動していきます。

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人
学芸員 笠原朋与

200年変わらない川のせせらぎを聞きに行ってみてください

基本情報

種別：日本遺産～北前船寄港地・船主集落～構成文化財
(平成29年4月認定)
文化13年(1816年)完成
所在地：足田



足田舟川

先人の運河計画に
思いを馳せる川の流れ

敦賀湾は古代より日本海沿岸、さらには大陸と繋がっており、各国の物資が敦賀へもたらされました。足田地域は、それらの物資を琵琶湖経由で京都まで運ぶための要所でした。江戸時代に入ると北前船で運ばれる大量の物資をより効率よく京都へ運ぶため、敦賀・琵琶湖間に運河開削を目指す機運が高まりました。

計画が実現したのは文化13年、現在の舟川の原型ができあがり、敦賀の町から足田までは舟で、足田からは牛車で深坂峠を越えて琵琶湖へ荷物が運搬されるようになりました。その後一旦は廃止されましたが、幕末には日本近海に外国船が現れた結果、下関、瀬戸内海航路以外の京都への物資輸送路確保のため、改めて1855年に整備、運送が再開されました。

最終的に舟川は慶応2年(1866年)に廃止されました。敦賀・琵琶湖間の運河開削はその後も計画されましたが、実現することはありませんでした。しかし日本海と琵琶湖をつなぐ輸送路は、明治14年(1881年)の長浜―敦賀の鉄道開通として別の形で結実したとも言えます。

足田舟川は幻の運河計画の一部が実現した形とも言えるかもしれません。日本海と畿内をつないだ時代を伝え、今も昔も変わらずに流れています。

広報担当者のつづき

今回、久しぶりの学校再開ということ、表紙撮影のため、25年程前に卒業した母校の小学校にお邪魔しました。新1年生であろう小さな子どもたちが、小さな体で大きなランドセルを一生懸命背負って登校する姿を見て、微笑ましく感じた一方で、自分が小学校に通っていた頃のことを思い出し、時が経つ速さを改めて感じました。(K)

広報つるがを作成するにあたって、私が最も苦手とするものがこの「編集後記」です。何を書こうか毎月頭を悩ませています…。取材で感じたことなどを題材にして書くことが多いのですが、最近特にイベントなどの取材が減り、いつも以上に手が進みません。早くいろんなところへ取材に行きたいです。(M)